

西伊豆町文化財総覧



西伊豆町教育委員会

文化財総覧の発刊にあたって

私たちの先人は西天城から屏風のように海まで延びた山々に遮られ、海が荒れると何日も閉ざされた集落で、豊かな文化をはぐくんで来ました。

本総覧で取り扱っている文化財は、いずれも先人たちの文化的活動によって生まれ、歴史上・芸術上・学術上等の観点から価値が高く、保護の対象とされて来ました。西伊豆町にはこの他にも指定や登録に準ずるものや調査結果が待たれるもの、長い歴史の中で途絶えたものや埋もれてしまったものなどが数え切れず、形態も多岐にわたっています。

西伊豆町の文化財総覧は、町村合併直前の旧西伊豆町において平成17年(2005年)3月に発刊して以来今回が2回目で、合併後の西伊豆町においては初の発刊になります。本総覧には旧賀茂村で合併前から指定していたものの他に合併後の西伊豆町において新たに指定したものを加えて、国指定2、県指定8町指定24、町登録5を収録しています。

近年はグローバル化の進展により、世界共通の価値観や世界規模の課題に対応する一方で、地方の文化や文化財にも目が向けられるようになりました。また、西伊豆町では人口減少による民俗芸能の後継者不足が目下の課題です。このような状況下での文化財総覧の発刊はたいへん意義深く、私たちに今一度郷土の文化遺産に目を向けて、考える機会を与えてくださいました。

ここに、本総覧の編集にあたった西伊豆町文化財保護審議会委員の皆様と、町内各地で文化財の保護にご尽力いただいている皆様に深く感謝申し上げます。

Blow Eternally, a Blissful Sea Breese 永遠に吹き続けよ、至福の潮風

堤直美氏作 西伊豆中校舎壁面のレリーフより

令和2年3月16日

西伊豆町教育委員会
教育長 清野 裕章

目 次

1	凡例	1
2	国・県・町の指定文化財と登録文化財の一覧	2
3	指定文化財の解説	3
4	登録文化財の解説	15
5	文化財に関する資料	17
6	指定・登録文化財に準ずる文化財一覧	18
7	本書の編集、刊行従事者名簿 文化財保護審議会委員 教育委員会事務局職員	19



1 凡例

<本書編集の目的> ふるさとの歴史と文化の歩みの中で育まれた文化財に対する理解を深めるとともに、これを保存愛護し、永く将来に伝えるため編集した。

また、既存の文化財総覧は合併前の旧西伊豆町の文化財のみの掲載のため、合併後の全ての文化財を網羅したものとした。

<本書の主な内容>

- 国、県及び西伊豆町の法令に基づいて指定された文化財と登録された文化財。
- 西伊豆町の文化財に関する調査研究資料。
- 西伊豆町内にある指定・登録文化財に準ずると思われる事項と物件。

※ 表紙写真：磯谷利治氏提供

◎ 西伊豆町指定文化財

令和2年3月16日現在

No	指定別	区分	種別	名称	種別	員数	指定年月日	所有者(管理者)	所在地	備考
1	国	天然記念物	地形	堂ヶ島天窓洞	洞	一帯	1935年8月27日	西伊豆町	仁科・堂ヶ島	
2	国	地名	地形	伊豆西南海岸	海岸	一帯	1937年6月15日	(西伊豆町)	仁科～田子	西伊豆町、松崎町、南伊豆町
3	県	有形文化財	彫刻	木造・釈迦、薬師、阿弥陀如来	像	三体	1954年1月30日	浜連台	仁科・堂ヶ島薬師堂	
4	県	有形文化財	工芸	釣燈籠	籠	一基	1967年10月11日	宇久須神社	宇久須	
5	県	無形民俗文化財	芸能	人形三番叟	叟	一式	1969年5月30日	浜	宇久須・牛越神社	
6	県	無形民俗文化財	芸能	仁科の人形三番叟	叟	一式	1972年3月20日	浜連台	仁科・佐波神社	演者28人
7	県	無形民俗文化財	芸能	中・神明神社式三番叟	叟	一式	2017年3月24日	勇義	中・海名野	演者19人(左ねまさ)
8	県	天然記念物	植物	永明寺のイチヨウ	ウ	一本	1968年7月2日	永明	大久須	樹齢:推定500～600年
9	県	天然記念物	地質	瀬浜海岸のトンボト	口	一帯	1983年9月27日	(西伊豆町)	仁科・瀬浜海岸	
10	県	天然記念物	地質鉱物	黄金崎のフロピライト	石	一箇所	1988年3月18日	西伊豆町	宇久須	
11	町	有形文化財	絵画	白岩山岩壁窟画	画	一群	1977年12月23日	浜連台	仁科・沢田	
12	町	有形文化財	工芸品	人形浄瑠璃の首と面	首	22・面2	1977年12月23日	浜連台	仁科・佐波神社	
13	町	有形文化財	古文書	豆州西浦大沢里村御繩打	打	一冊	1977年12月23日	祢宜ノ	大沢里・祢宜ノ畑	文禄3年9月6日水帳(1594)
14	町	有形文化財	古文書	北条氏虎印の法度状	状	一冊	1979年3月11日	教育委員	教育委員会	元龜4年7月16日(1573)
15	町	有形文化財	民俗資料	生産加工(鯉節製造)用具	具	一式	2003年8月22日	西伊豆町	田子	
16	町	有形文化財	歴史資料	畷神社文龜3年棟札	札	一枚	2003年8月22日	畷	田子・畷神社	
17	町	有形文化財	歴史資料	佐波神社慶長10年棟札	札	一枚	2003年8月22日	佐波	仁科・佐波神社	
18	町	有形文化財	工芸品	神船模	型	一隻	2008年3月24日	柴	宇久須・出嶋神社	
19	町	有形文化財	絵画	三十六歌仙扁額	額	34枚(2枚欠損)	2008年3月24日	宇久須神社	宇久須・宇久須神社	
20	町	有形文化財	彫刻	薬師如来像	像	一躯	2008年3月24日	明泉	宇久須・明泉寺	
21	町	無形民俗文化財	芸能	駒形神社神楽	楽	一式	1977年12月23日	勇義	中・寺川	
22	町	無形民俗文化財	芸能	野畑天神社の神楽	楽	一式	1977年12月23日	野畑	仁科・野畑	
23	町	無形民俗文化財	年中行事	岩ヶ戸の百八灯	灯	一式	1977年12月23日	岩谷戸	一色・岩谷戸	
24	町	無形民俗文化財	年中行事	天王社お注連あげ	げ	一式	1977年12月23日	浜連台	仁科・天王社	
25	町	無形民俗文化財	芸能	猿っ子踊り	り	一式	1989年12月20日	柴	柴区	
26	町	無形民俗文化財	年中行事	浜施餓鬼	鬼	一式	2008年3月24日	安良里漁協・安良里自治会	安良里	
27	町	無形民俗文化財	風俗慣習	正月魚(しょうがつよ)	よ	一式	2017年11月22日	田子まちづくり協議会・西伊豆町商工会	田子	
28	町	史跡	考古資料	栗原草穴古墳	墳	一帯	1977年12月23日	堤正夫氏	中・栗原	横穴式高塚石室古墳
29	町	天然記念物	植物	中・神明神社のナギ	ギ	一對	1989年10月20日	神明	中・海名野	
30	町	天然記念物	植物	宮ヶ原・天神社のスタジイ	イ	一本	1989年10月20日	天神	大沢里・宮ヶ原	樹齢:推定300年
31	町	史跡	遺跡	辰ヶ口岩陰遺跡	跡	一帯	1998年11月16日	(西伊豆町)	田子・今山	岩陰遺跡・墳墓
32	町	天然記念物	植物	白川宮下の大ツバキ	キ	一本	2002年4月23日	斎藤喜徳氏	大沢里・白川	樹齢:推定250年
33	町	天然記念物	植物	うばめがし・はまぼろ樹林	林	一式	2008年3月24日	浦守神社・安良里漁協	安良里・網屋崎	
34	町	天然記念物	植物	神田神社の柳	柳	一本	2008年3月24日	神田神社	宇久須・神田神社	樹齢:推定300年

○ 西伊豆町の登録文化財

1	町	有形文化財	考古資料	縄文時代人骨	骨	一帯	2002年4月23日	西伊豆町	教育委員会	
2	町	有形文化財	考古資料	弥生時代弓	弓	一帯	2002年4月23日	西伊豆町	教育委員会	
3	町	史跡	遺跡	仁科川河床遺跡	跡	三体	2002年4月23日	国土交通省	教育委員会	
4	町	史跡	遺跡	田子中学校遺跡	跡	一基	2002年4月23日	西伊豆町	教育委員会	
5	町	史跡	城跡	安城山城跡	跡	一本	2002年4月23日	西伊豆町	仁科	

指定文化財

■ 国の指定 ■

① 天然記念物（地形）堂ヶ島天窓洞 [昭和 10 年 (1935) 8 月 27 日 国指定]

この天窓洞は、海食によって作られたもので白い凝灰岩（安山岩質）からできている。

一带は低い半島状をなし、その地下は蜂の巣のように海食洞があり、その構造は複雑で、断層は明瞭である。洞の内部は、二本の横穴からできていて、西口、南口、東口がある。東口の開口部が国道 136 号線に面し、長さ 147m に達する。

中央付近は、天井が大きく抜けて天窓をなし、差し込む光によって海水はエメラルドグリーンにそまる。

この海食洞窟は、観光船が出入りでき、奇勝を鑑賞することができる。



② 名勝（地形）伊豆西南海岸 [昭和 12 年 (1937) 6 月 15 日 国指定]

田子港の弁天島から石廊崎を経て南伊豆町の盥（タライ）岬に至る海岸一帯は風景、地質ともに貴重であり、伊豆随一のジオサイトとしても注目をあびている。

特に堂ヶ島海岸は凝灰岩から成る海食海岸で岩上に松樹が茂り島々の間に静かな海湾ができており、伊豆西南海岸の中で美しい景勝地である。



■ 県の指定 ■

③ 有形文化財（彫刻）木造・釈迦、薬師、阿弥陀如来坐像

[昭和 29 年 (1954) 1 月 30 日 県指定]

堂ヶ島薬師堂に安置されている、釈迦、薬師、阿弥陀の三体の如来坐像は、仏像内部の記録によると天正 22 年 (1594) 9 月鎌倉仏師伊予の作とされている。作られた年月日が記されている仏像は少なく、仏像を研究する上でも貴重である。

桧材の寄木造で表面には金箔が貼られている。如来三尊を並べて安置しているのは珍しい。素朴で地方的色彩の強い個性的な創作である。昭和 51 年 (1976) から 3 年にわたって修理した。



④ 有形文化財（工芸）宇久須神社釣灯籠

[昭和 42 年（1967） 10 月 11 日 県指定]

慶長 14 年（1609）11 月、当時の伊豆金山奉行大久保石見守長安が鉾山の隆昌を祈願して宇久須神社に奉納した。青銅板に鍍金したもので形状は六角形である。中央の唐草透彫の上に上り藤の定紋を打ち出し、下方及び上方の庇^{ひさし}に宝珠を刻み優美で精巧を極めた作品である。

高さ 53cm
火袋の径 24.2cm
台座の径 30.3cm
重さ 5.5kg



⑤ 無形民俗文化財（芸能）牛越神社の人形三番叟 [昭和 44 年（1969） 5 月 30 日 県指定]

古くからふるさとの繁栄を願って浜の牛越神社に奉納し続けてきた人形劇。この三番叟は 21 人の役付きにより構成され、翁、千歳、三番叟の人形をそれぞれ 3 人で操り、謡、鼓、笛、太鼓の調子に乗って演ずるもので文楽に似たものである。

11 月 2 日は宵祭りで「見せ」といい「日の入り三番」という。3 日は本祭りで奉納三番叟「御納」を上演、「日の出三番叟」という。



⑥ 無形民俗文化財（芸能）仁科の人形三番叟 [昭和 47 年（1972） 3 月 20 日 県指定]

文政 8 年（1825）佐波神社社殿の大改修を祝って奉納されたのが初演とされる。大久保石見守長安が金山奉行となった慶長の頃から、伊豆地方の神社において能を奉納したという。

人形を使う三番叟は、子浦、佐波神社、宇久須、内浦と海名野の神明神社である。佐波神社では演者 28 人（人形師 9 人、演奏 10 人、地謡 8 人、影 1 人）、浜区共導社が受け継ぎ、毎年 11 月 2 日（日の入り三番）11 月 3 日（日の出三番）として上演されてきたが、現在は浜連合区が受け継ぎ、貴重な郷土芸能の一つとなっている。



⑦ 無形民俗文化財（芸能）中・神明神社の式三番叟 [平成29年（2017）3月24日 県指定]

神明神社の式三番叟は、江戸時代中期の享保年間（1716～1735）に奉納したと伝えられている。

日時 11月2日（日の入り三番）

11月3日（日の出三番）

演者 17人

人形師（千歳1人、翁1人、尉3人）、

謡 本謡1人、地謡2人

演奏 大太鼓1人、小太鼓1人、笛1人、
鼓3人、大鼓1人、影2人

演目 千歳の舞、翁の舞、春の舞、鈴の舞

演技 千歳と翁は、1人で人形を操り、謡と鼓を中心の囃子で次々に舞う。尉は「頭使い」と「足使い」の2人で操り、囃子は、笛、太鼓、鼓、影を中心に春の舞を舞い、鈴の舞は左手使いが加わり3人で舞う。勇義社が伝承している。



⑧ 天然記念物（植物）^{ようめい}永明寺の公孫樹

[昭和43年（1968）7月2日 県指定]

大久須の永明寺の山門をくぐると大きなイチョウの木がある。大きさは根回り10m、目通り5.2m、樹高25.5m、枝張東西14m、南北15mある。特徴として乳状下垂根が数多くあり、大きなものは長さ3mもある。

永明寺には子安地蔵菩薩が祀られており、いわゆる「子安講」が形成され、この下垂根による子安の信仰は安産を願うための祈りの対象とされていた。

樹齢は500年～600年と推定されている。



⑨ 天然記念物（地質）瀬浜海岸のトンボロ [昭和58年（1983）9月27日 県指定]

堂ヶ島の北方、海岸から200m離れた伝兵衛島（三四郎島の一つで象島とも呼ぶ）は、干潮時になると、海岸との間にトンボロ（Tombolo）が現れて陸繋島となり、当地では、瀬浜と呼ばれている。

砂州は、大小の石からなっている。これは島によって沖からくる波が弱められ、屈折し、両側から同じ力の静かな波が寄せ合って、間に洲を作り上げたものである。

国道136号線沿いから眼下に一望することができ、干潮時には砂州を歩いて伝兵衛島に渡ることもできる。砂州の長さ約220m、幅（干潮時の最大）約40mとなる。



⑩ 天然記念物（地質鉱物）黄金崎のプロピライト [昭和 63 年（1988） 3 月 18 日 県指定]

西伊豆は夕陽が素晴らしい。

特に黄金崎は三島由紀夫の小説にもあるように、海岸の岩壁に夕陽があたると黄金色に染まり、とても美しい。海に突き出た岩は馬にそっくりで、観光客を喜ばせてくれる。さらに晴れた日には、遠く富士山も見ることができる。

黄金色に輝く岩壁の秘密はその岩石にある。この付近には大きな火山がいくつもあり、地下深い所にあった安山岩が、マグマに温められた熱水の影響を長い間受け続けたため変質したものである。その後の隆起、浸食で今の姿、黄褐色の岩肌となり、この黄褐色の安山岩に夕陽が当たると赤みが増し、黄金色に輝くのである。



— 町の指定 —

⑪ 有形文化財（絵画）白岩山岩壁窟画 [昭和 52 年（1977） 12 月 23 日 町指定]

乗浜と船溜りの中間の山裾の凝灰岩を間口 5.36m、高さ 1.95m、奥行 2.68m に人工掘削し、正面壁面に須弥壇を作り、上部岩肌に合計 7 体の仏像が線彫で描かれている。壁窟は、天福元年（1233）に創建された天福寺の廃寺跡に残されたものである。室町中期の作と思われる。本尊の虚空蔵菩薩は、大日如来との説がある。



仏像の配置						
如 意 輪 観 音	来 迎 弥 陀	釈 迦 如 来 坐 像	不 動 明 王	虚 空 蔵 菩 薩	(大日如来像)	聖 徳 太 子 孝 養 像 地 蔵 菩 薩 立 像

⑫ 有形文化財（工芸）人形浄瑠璃の首・面 [昭和 52 年（1977） 12 月 23 日 町指定]

佐波神社の奉納三番叟は、慶長 11 年（1606）金山奉行大久保石見守長安が伝えたという。

文政 8 年（1825）11 月、神社の大改修を祝って初めて操り人形芝居として奉納、首は駿府人形屋初代長兵衛外 2 代 3 代の後継者が作ったとされ、かつては 100 以上の首が残っていたが、現在は 19 の首が保存されている。

尉面は住吉明神と記してある。

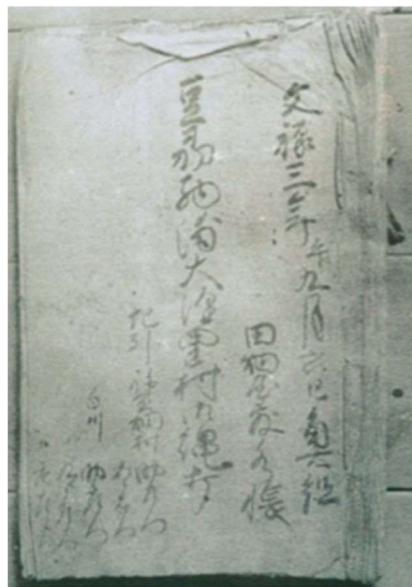
翁面は天照大神宮と記してある。



⑬ 有形文化財（古文書）豆州西浦大沢里村御縄打 [昭和52年（1977）12月23日 町指定]

豊臣秀吉は、天正10年（1582）から慶長3年（1598）にかけて各地を征服するごとに、また大名を転封するたびに検地を実施した。伊豆は、北条氏が支配していたが天正18年（1590）に豊臣秀吉に敗れ、4年後の文禄3年（1594）に伊豆代官の彦坂小刑部によって伊豆の総検地が実施された。

検地は、土地調査で、竿入、縄打などともいわれ、一定の基準によって村ごとの土地を一筆ごとに量り、田畑・屋敷の区別や上・中・下の等級、面積、分米（石高）などと共に名請人を決定した。大沢里村でも、この時の記録として文禄3年（1594）9月6日の御縄打帳が残され、祢宜の畑山神社に保存されている。

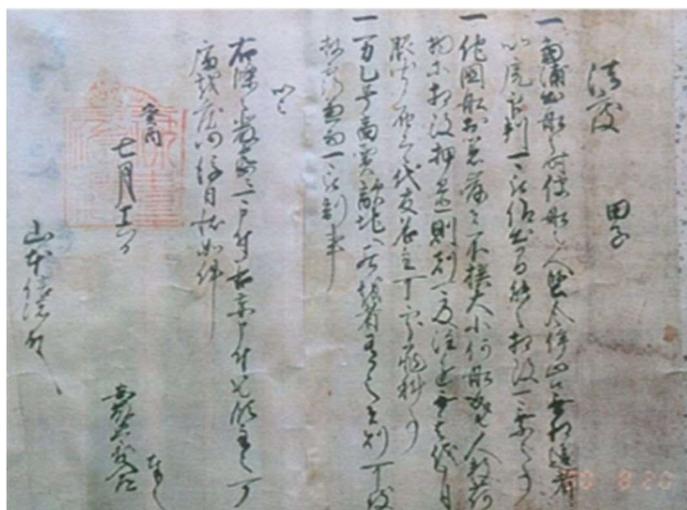


⑭ 有形文化財（古文書）北条氏虎印の法度状 [昭和54年（1979）3月11日 町指定]

元亀4年（1573）7月16日小田原城主北条氏直の家臣安藤豊前入道の名をもって、山本信濃守宛に付近の海岸に出入りの船を厳重に監視し、取締りを行うべき旨の法度状である。

この文書は、山本信濃守の末裔である田子山本家（旧大阪屋）に代々伝えられて保存されてきたものである。当町最古の文書である。

西伊豆町教育委員会で保存している。



⑮ 有形文化財（民俗資料）生産加工（鯉節製造）用具 [平成15年（2003）8月22日 町指定]

田子の鯉節の起源は、奈良平城宮跡から出土した木簡によれば、奈良時代には、既に田子において鯉節の元といわれている「荒堅魚」を作り、これを税（調）として朝廷に納入していた。これが田子鯉節の歴史の始まりである。その後、近代に入り主要産業として町の経済を支え、特異な発展を遂げた鯉節製造用具である。



⑯ 有形文化財（歴史資料） 唎胡神社文亀三年棟札 [平成15年(2003) 8月22日 町指定]

この棟札は、明応7年(1498)の大地震による八幡若宮社の社殿を再興したことを記したもので、当町の歴史的背景や人物、地名などを知る貴重な資料である。



⑰ 有形文化財（歴史資料） 佐波神社慶長十年棟札 [平成15年(2003) 8月22日 町指定]

この棟札は、慶長9年(1604)津波によって被害を受けた神社が翌10年に再興されたときに作られたものであり、当町の歴史的背景や人物、地名などを知る貴重な資料である。



⑱ 有形文化財（工芸品） 出崎神社の神船模型 [平成20年(2008) 3月24日 町指定]

出崎神社の秋祭りで昭和50年くらいまで使われていた神船が、昭和59年10月の日本海事史学会の会員による調査で、県内最古の関船(江戸時代に頻繁に使われていた軍船)の模型であることが明らかになった。ひのき造りで全長1.97m、全幅0.44m、深さ0.22m、敷(船の底板)の長さ1.12mで船の内部に墨字で「寛政12年(1800)庚申歳2月吉日 大工井上半兵衛 同又七」と書かれている。

二人でこぐ櫓が左右に14ずつ計28あり、踊り場か大名などの展覧台と思われる部分と松尾楼(屋根)が船上に設置されている。

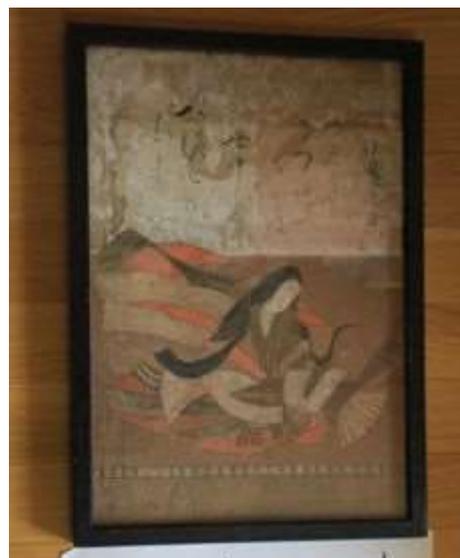


⑱ 有形文化財（絵画）三十六歌仙の扁額 [平成20年（2008）3月24日 町指定]

万葉集以後平安中期までの三十六人の著名歌人とその秀歌が描かれている。

幅 29.5cm、長さ 41.7cm、（幅、長さともやや短いものが6枚）、厚さ 1cm の杉材に全面を淡い明色で下塗りし、上部に一首を、下部に読み人を美しく描いたものである。現存するものは34枚である。

寄進の年代は慶長17年（1612）8月吉日で豆州井田庄宇久須領主 服部大蔵秀忠、六兵衛、門左衛門の名がある。



⑳ 有形文化財（彫刻）明泉寺の薬師如来坐像 [平成20年（2008）3月24日 町指定]

宇久須明泉寺の宝物で、桧材（体部）、寄木造、漆箔、彫眼、像高 92.5cm。

本像はどのような事情でか、頭部と体部が異なる時代のものとなっている。頭部の作風は典型的な藤原風で、粒の揃った螺髪や全体の整った造形でおだやかな表情を見せ、面相に顕著な都風を示している。体部は頭部によく作風を合わせながら、側面観では堂々とした厚みもあり、鎌倉時代のものといえる。



㉑ 無形民俗文化財（芸能）駒形神社の神楽 [昭和52年（1977）12月23日 町指定]

寺川駒形神社の神楽

初演 江戸時代弘化年間（1844～1848）と推定

日時 2月11日・11月3日

演者 獅子舞2人

演目 サガリハ、剣の舞（現在は中止）
鈴の舞、神の舞、くるい

演奏 太鼓1人、笛若干名

演技 獅子頭を冠り演奏に合わせ1人又は2人で舞う。明治末期まで神楽芝居も行われていた。



⑳ 無形民俗文化財（芸能）野畑天神社の神楽 [昭和 52 年（1977） 12 月 23 日 町指定]

野畑天神社の神楽

初演 江戸時代弘化年間（1844～1848）と推定。明治初期原木神楽にも演技を習ったとされている。

日時 11 月 2 日夜、11 月 3 日朝

演者 獅子舞は 1 人ないし 2 人で演ずる。

演目 初組 サガリハ、剣の舞、くるい

後組 サガリハ、新拍子、くるい

演奏 小太鼓、桶太鼓 1 人、笛若干名

演技 獅子頭を冠り演奏に合わせ 1 人又は 2 人で舞う。

3 日には、地区の全世帯を廻る。



㉓ 無形民俗文化財（年中行事）岩谷戸の百八灯 [昭和 52 年（1977） 12 月 23 日 町指定]

毎年 8 月 15 日の夕暮れ迫る岩谷戸集落前の土手に立てられた 108 本のタイマツに子ども達が順次火をつけ、厄病払いと虫送りのため行われる。安永年間（1772～1781）からこの行事は行われている。



㉔ 無形民俗文化財（年中行事）天王社お注連あげ [昭和 52 年（1977） 12 月 23 日 町指定]

毎年 7 月 16 日に仁科浜の天王社裏山に大注連（長さ 90m）を張り渡す。

稲ワラで地区の人々が大注連縄を作り、その中間に麦ワラで作った馬 6 頭と中央に幣束を立てる。

五穀豊穰と悪疫退散を祈って行われる行事である。



②⑤ 無形民俗文化財（芸能）猿っこ踊り [平成元年（1989）12月20日 町指定]

発祥の由来は明らかではないが、江戸時代からの伝承芸能である。例祭は11月2日と3日に行われる。昭和17年頃まで、長さ15.6m、幅3mほどの祭り専用の船の上で、赤頭巾、赤衣装をつけた若衆が「猿踊」を行い、海上の安全と漁労の繁昌、魔除けを祈った。踊りには「立踊り」「扇子踊り」「鯨突き」「倒立踊り」があり、御歌は「目出度」「初春」「黄帝」などを古老が唄った。

昭和53年から柴子供会の子供達に受け継がれて「猿っこ踊り」として現存している。



②⑥ 無形民俗文化財（年中行事）浜施餓鬼
[平成20年（2008）3月24日 町指定]

飢えに苦しむ餓鬼に飲食物を施す施餓鬼会、新亡精霊の冥福と無縁仏への追善供養の意味が重なっている。施餓鬼壇を作って「三界万霊」の位牌を安置し、水や供え物をする。

良港のある安良里では海の幸への感謝も込め魚介類や海豚供養も含まれている。

8月15日の夕方、多目的広場の海側に数基の灯を立て、^{のぼり}幟のついた7、8mの竹4本と杉の葉で囲まれた中に供物を載せた精霊船が納められる。ドラと太鼓と鐘の音と共に僧侶による供養の読経が響く。現在まで毎年欠かさず続いている地域住民にとって大切な行事である。



②⑦ 民俗文化財（風俗慣習）正月魚（しょうがつよ） [平成29年（2017）11月22日 町指定]

田子地区では、航海安全と豊漁豊作・子孫繁栄を祈願し、塩鯉にワラ飾りを付け正月に神棚にお供えする風習があり、その際に塩鯉は「正月魚（しょうがつよ）」という名前で呼ばれる。

三が日を過ぎると神棚から降ろし、関係者に振る舞われたり、保存食として家庭で消費される。

また、田子地区の船員への雇用の証しとして、年の初めに契約の品に使われたりもしており、昔から身近な食べ物として親しまれてきた。

現在製造されているのは、全国で田子地区のみとなっている。



⑳ 史跡（考古資料）栗原昔穴古墳 [昭和 52 年（1977） 12 月 23 日 町指定]

栗原の裏山で標高 90m の中腹に所在し、封土はなく天井石が露出している。

石室は、横穴式で南側が開口し、北北西に長さ 4m、幅 80cm、入口やや狭く、奥に広がっている。古墳時代の後期と思われるが出土遺物はない。

室壁は、丸い大小の石に覆われ、天井は、3 個の石でふさがれている。北側には、カブト岩と云われる大岩が点在しているが、古墳の跡ではないだろうかと思われる。



㉑ 天然記念物（植物）中・神明神社のナギ [平成元年（1989） 10 月 20 日 町指定]

海難、災難等難を鎮め、平穏を祈願する神木として神殿正面に雌雄対にあり、しかもこれ程の大木は珍しい。

氏子の崇拜・愛着は、強いものがある。

樹齢 不明

樹高 雌株 16.45m 雄株 16.45m

枝張 雌株 17.00m 雄株 12.40m

周囲 雌株 2.87m 雄株 2.50m



㉒ 天然記念物（植物）宮ヶ原・天神社のスダジイ [平成元年（1989） 10 月 20 日 町指定]

樹齢おおよそ 300 年と推定されている神木である。近郷近在には、類を見ない古木大木で氏子の崇拜・愛着は強いものがある。

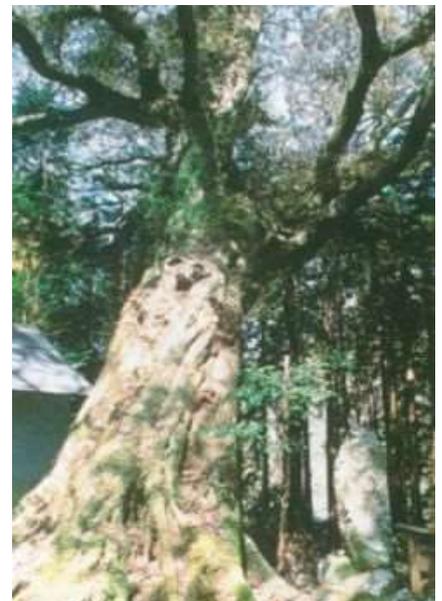
樹齢 推定 300 年

樹高 27.45m

枝張 25.00m

周囲 7.50 m

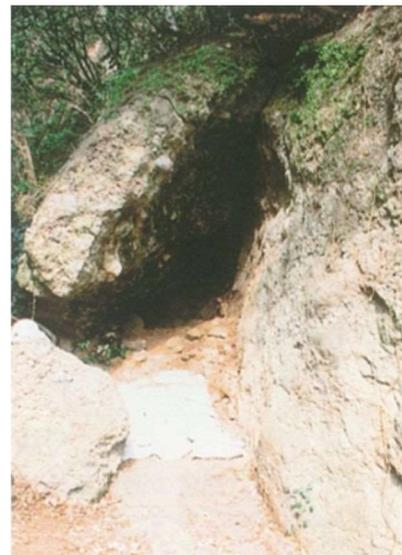
※ 令和 3 年 1 0 月 1 0 日倒木しました。



③① 史跡（遺跡）辰ヶ口岩陰遺跡 [平成10年（1998）11月16日 町指定]

板状の岩盤が何らかの原因で崩落し、屏風状の岩に斜めにかかって、その下に三角形の空間部を作りだし岩陰となったものである。その岩陰を利用した古墳時代後期の埋葬遺跡である。

遺物は、平成9年（1997）12月に現地調査の結果、副葬品とされる須恵器3点、鉄製品9点（鉄鏃、釣針、太刀等）、銅製品、頭蓋骨片、貝などが発見された。



③② 天然記念物（植物）白川宮下の大ツバキ [平成14年（2002）4月23日 町指定]

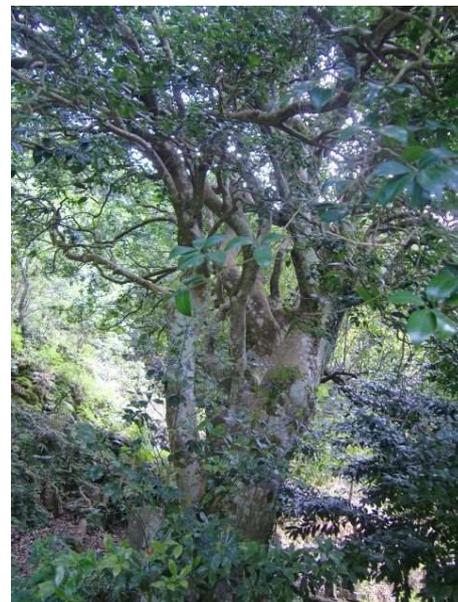
町の木「つばき」としては、町内随一の大きさを誇り、報告事例としては、県内一の巨木である。1月から3月にかけて艶深い緑の中に深紅の花が鈴なりに咲く様子は圧巻である。

樹齢 推定 250年

樹高 10.00m

枝張 12.50m

周囲 2.60m



③③ 天然記念物（植物）網屋崎のうばめがし・はまぼう樹林

[平成20年（2008）3月24日 町指定]

安良里網屋崎の植物群落を特色づけるものに「うばめがし」「はまぼう」樹林がある。

内湾側の泥地に多く繁茂している。「うばめがし」は470余株、このうち根回りが30cm余、高さは10mのものが最大である。根部は海水の浸透を受けている。「はまぼう」は100余株で8月に黄色い花をいっぱいつける。横に繁茂し、高さは4～5mに達するものがある。



③④ 天然記念物（植物）神田神社の榎 [平成20年（2008）3月24日 町指定]

神社の社殿の右側に双幹をなす榎の木がある。樹肌が滑らかなの紫褐色でうろこ状に不規則に剥がれる堂々たる古木である。マキ科の常緑針葉樹で樹高22m、枝張12m、幹周2.2m、推定300年の御神木であり、葉は切れない縁を宿す物として、男女が縁結びを祈願するという縁起木でもある。



① 有形文化財（考古資料） 縄文時代人骨 [平成14年（2002）4月23日 町指定]

築地遺跡よりも古い時期の墓穴は県内でも多く発見されているが、実際に骨格や骨片を残すものは約4000年前以降の縄文後・晩期のものである。築地遺跡は、縄文中期中葉（約4600～4700年前）のものであり、県内最古の人骨と思われる。埋葬者の年齢は壮年、性別は女性であると推定される。



② 有形文化財（考古資料） 弥生時代弓 [平成14年（2002）4月23日 町指定]

築地遺跡の二次調査において出土したものである。弓は径2cmほどの榎の木の枝を利用し作られたものであり、一部欠損しているが、全長1.3mであったと推定される。搬出した土器片を見ると弥生時代中期後半の長伏式期（約2100年前）のものであり、ほぼ完全な形で発見されたことは珍しい。

③ 史跡（遺跡） 仁科川河床遺跡 [平成20年（2008）3月24日 町指定]

昭和54年から56年（1979～1981）にかけての築地橋架け替え工事の河床掘削時に弥生式土器の破片が多数出土した。昭和58年（1983）1月河川工事では、縄文式土器及び石器片を出土した。同年3月一次調査を実施、縄文中期中葉勝坂期及び縄文中期並びに後葉加層利期の土器片及び石器片を出土した。平成2年（1990）1月から二次調査を実施、前述の縄文人骨や弓、縄文式及び弥生式土器が出土した。これによって当町に縄文時代（約4700年前）、弥生時代（約2100年前）の遺跡が存在することが確認された。



④ 史跡（遺跡）田子中学校遺跡 [平成14年（2002）4月23日 町指定]

昭和30年（1955）木造校舎建築に伴う造成工事によって弥生時代後半の土器が出土した。昭和55年（1980）新校舎建築にあたり数カ所において発掘調査を実施したところ、弥生式土器、土師器、須恵器などの破片が発見された。



⑤ 史跡（城跡）安城山城跡 [平成14年（2002）4月23日 町指定]

平成4年（1992）に静岡大学の現地調査によって、安城山に2カ所の空堀と3カ所の曲輪跡と思われるものが確認され、中世（戦国時代後半）の城郭があったのではないかと推測されている。



西伊豆町文化財に関する資料

資料の名称	発行日
(1) 西伊豆町文化財に関する資料 第1集	昭和44年(1969)3月5日
(2) 同 第2集	昭和45年(1970)3月5日
(3) 同 第3集	昭和46年(1971)3月5日
(4) 同 第4集	昭和48年(1973)3月5日
(5) 同 第5集	昭和49年(1974)3月5日
(6) 同 第6集	昭和52年(1977)5月1日
(7) 西伊豆町の文化財(第1集~6集の集約)	昭和55年(1980)11月3日
(8) 西伊豆町の文化財(指定文化財等収録)	昭和56年(1981)3月1日
(9) ふるさとの伝説を訪ねて	昭和57年(1982)3月1日
(10) 西伊豆町の原始文化	昭和58年(1983)8月11日
(11) 築地地先仁科川河床遺跡	昭和59年(1984)2月1日
(12) ふるさとの先覚者たち	昭和59年(1984)3月1日
(13) 西伊豆町の文化財(文化財マップ等添付)	昭和61年(1986)3月1日
(14) ふるさとの石仏・石祠を訪ねて	平成元年(1989)3月31日
(15) ふるさとの食	平成2年(1990)3月31日
(16) 西伊豆築地遺跡(発掘調査資料)	平成3年(1991)3月30日
(17) 西伊豆町誌 資料第1集(神社・寺院・棟札編)	平成6年(1994)4月1日
(18) 同 資料第2集(民俗編上巻)	平成8年(1996)4月1日
(19) 同 資料第3集(民族編下巻)	平成9年(1997)3月31日
(20) 辰ヶ口岩陰遺跡(発掘調査資料)	平成10年(1998)3月25日
(21) 西伊豆町誌 資料第4集(通史編)	平成12年(2000)6月30日
(22) 賀茂村誌 資料第1集(賀茂村社寺考)	平成12年(2000)春
(23) ふるさとのしおり(賀茂村文化財に関する資料)	昭和52年(1977)5月15日

指定・登録文化財に準ずる文化財一覧

令和2年3月現在

No.	名称	所在地	区分	摘要
1	ウバメガシ群落	大田子白山神社付近 田子神社裏から合ノ浦	天然記念物	
2	イチョウ	田子・正法院内	天然記念物	
3	ハイコモチシダ	一色・大沢里地区	天然記念物	
4	山柿	宮ヶ原（山本順万氏宅）	天然記念物	

5	小松城跡	今山	史跡	
	田子城跡	城ヶ平		
6	船隠し	田子港北岸	史跡	伝承・地名として現存
7	大城城跡	大沢里大城	史跡	大城地内
8	鴨ヶ池遺跡	仁科沢田	史跡	沢田地区船溜まり
9	大田子遺跡	大田子（藤井聰一氏宅）	史跡	鏃が出土
10	中島遺跡	安良里	史跡	
11	観測所跡	賀茂中学校校庭	史跡	
12	石切場跡	黄金崎・堂ヶ島・安良里他	史跡	
13	震洋格納庫跡	田子・安良里 他	史跡	
14	忠魂碑	仁科・田子・安良里・宇久須	史跡	

15	高見	田子港東岸台地	民俗資料	魚群の見張り場 戦国期の監視所
		今山船隠しの上	史跡	
16	方位石	田子 日和山	民俗資料	
17	足神社石碑	中寺川 東福寺内	民俗資料	体（足）が基本となっていた時代の証か
18	力石	一色・白川地区	民俗資料	
19	鯉供養塔	田子	民俗資料	
20	海豚供養塔	安良里	民俗資料	
21	指さし地蔵	安良里	民俗資料	
	安良里道地蔵	宇久須		

22	田子祭囃子	田子地区	民俗芸能	特徴のある祭り囃子。田子囃子と大田子囃子の2調子あるが、田子地区の祭囃子として考える。
		大田子地区		
23	獅子練り	仁科 佐波神社	民俗芸能	雄雌一対の獅子頭、伝統行事

24	かめ棺	旧田子中学校	歴史資料	古常滑焼き、中国古銭。浮島地区の伝承「五輪さん」熊玉丸との関連など考察するのは大変興味深い。
----	-----	--------	------	--

25	地蔵菩薩	仁科 佐波神社	美術工芸	
26	東福寺五百羅漢	中 寺川	美術工芸	
27	不動明王奉納刀	田子 不動さん	美術工芸	作者 国次

28	獅子頭	築地、神明社・辺見社	美術工芸	
29	三番叟首(かしら)	海名野、神明社	美術工芸	千歳・翁・三番(尉)の三体
		宇久須、牛越神社	美術工芸	
30	竜、バク彫刻	宇久須神社	美術工芸	石田半兵衛 作
31	観音像	中 延命寺・長光寺	美術工芸	伊豆横道観音三十三カ所のうちの四カ所
		堀坂 慈眼寺		
		大田子 円成寺		

世界ジオパーク関連文化財

32	枕状溶岩	一色・堀坂	地質	
33	硅石鉱山	宇久須 芝山	地質	
34	柱状節理	仁科 浮島	地質	



編集、刊行従事者名簿

1. 文化財保護審議会委員

会 長	藤 井 駒 一
副 会 長	浅 賀 丈 吉
委 員	土 屋 晴 樹
委 員	角 屋 守 男
委 員	鈴 木 絹 子

2. 教育委員会事務局職員

教 育 長	清 野 裕 章
事 務 局 長	高 木 光 一
社会教育係長	松 田 恵 一



「西伊豆町文化財総覧」

令和2年3月16日発行

編 集 西伊豆町文化財保護審議会

発 行 西伊豆町教育委員会